

令和4年度 一般選抜（C日程）における小論文出題意図

国際地域学部

1. 小論文問題作成の基本的な考え方について

新潟県立大学の基本理念および国際地域学部のアドミッションポリシーに基づき、本学部での学修にあたって欠かせない資質が総合的に備わっているかどうかを確認するための出題である。特に、「思考力・判断力・表現力」、および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を有することを、長文読解および文章作成によって確認することを意図した。

2. 試験問題の内容および意図について

（内容）

問題文は、経済学者で評論家として活躍する暉峻淑子（てるおかいつこ）氏の著書『対話する社会へ』（岩波新書、2017年）からの引用で、過去の名著『甘えの構造』（土居健郎、1971年）と『タテ社会の人間関係』（中根千枝、1967年）に関して論評されている部分である。

（意図）

設問1は、『甘えの構造』の主旨を受けて著者（暉峻氏）が自身の基本的な認識を示している部分に関して、その認識を受験者が正しく把握しているかどうかを確認するものである。

設問2は、『タテ社会の人間関係』の結論に関する著者（暉峻氏）の評価を、引用文から正しく読み取り的確にまとめる能力を受験者が有するかどうかを確認するものである。

設問3は、著者（暉峻氏）の「対話によって新しい視野が開かれ平和で希望の持てる社会が築かれる」との論旨を踏まえて、現代社会における対話の意義や重要性に関して、自分の考えをまとめて説明する能力を受験者が有するかどうかを確認するものである。

これは、上記1にあげた「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」、すなわち「国際社会の平和と発展、多文化共生社会の実現...積極的に学んでいくこと」（アドミッションポリシーより）の確認を意図している。